

改訂の序

～ERで自信をもって振る舞うために～

“夢を持てば笑われて 声を上げれば叩かれる 見上げることができない
町で ボクはどうだ？” *POUPELLE of CHIMNEY TOWN THE*
MUSICAL ミュージカル「えんとつ町のプペル」より

救急外来（ER）の初療を担っているのは誰でしょうか。ごく限られた施設では、人材を確保し救急科専門医などER専従のスタッフで対応しているところもありますが、多くは初期研修医を代表とした若手医師が奮闘しているのが実情です。

私が救急医になりたての頃、いつも大きなバッグとともに行動していました。その中には自身で作成したまとめノートや沢山の参考書、幾らかの文献が入っていました。日々の診療が不安であるが故、バッグの中身は日に日に増え、最終的には持ち手が引きちぎれたほどです。

本書は「ERで困ったらまず開く本」を目指し、必須知識を1冊にギュッと凝縮しました。2015年の初版からupdateし、遭遇するであろう代表的な症候や疾患の初期対応はもちろん、コンサルトや具体的なフォローの方法なども簡潔にまとめています。さらに、ERで行う頻度の高い処置、記載に悩むことの多い文書などに関しても取り上げています。ERにこの本が1冊あれば、皆さんの持ち物、そしてER診療の不安も減ること間違いなしです。

ERを訪れる全ての患者さんの初期対応を自信をもって行うことは簡単ではありません。しかし、それを目標に共に成長しようではありませんか。

冒頭の台詞は2020年に映画化、2021年にミュージカル化された『えんとつ町のプペル』より。研修医がこの本を読んで自信をもってERで働くことを夢見て。

2022年1月

総合病院 国保旭中央病院救急救命科
坂本 壮